

SONIC CITY

2024 SERIES

7:00pm, September 13th (FRI),

2024

145

ソニックシティ 2024 シリーズ 第 145 回さいたま定期演奏会
2024年9月13日(金) 午後7時開演 / ソニックシティ 大ホール

program

第145回さいたま定期演奏会 日本フィルハーモニー交響楽団

ヒグドン

ファンファーレ・リトミコ [日本初演] (約6分)

Jennifer HIGDON: *Fanfare Ritmico* (Japan Premiere)

モーツァルト

ヴァイオリン協奏曲第4番《軍隊》ニ長調 K.218 (約23分)

Wolfgang Amadeus MOZART: *Concerto for Violin and Orchestra No.4 "Military" in D-major, K.218*

～休憩(20分)～

ショスタコーヴィチ

交響曲第5番 二短調 op.47 (約50分)

Dmitri SHOSTAKOVICH: *Symphony No.5 in D-minor, op.47*

指揮：原田慶太楼

Conductor: HARADA Keitaro

ヴァイオリン：辻彩奈

Violin: TSUJI Ayana

コンサートマスター：扇谷泰朋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: OGITANI Yasutomo, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ：門脇大樹 [日本フィル・ソロ・チェロ]

Solo Violoncello: KADOWAKI Hiroki, JPO Solo Violoncello

主催

公益財団法人埼玉県産業文化センター／さいたま市／公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援

埼玉県／埼玉県教育委員会／さいたま市教育委員会／埼玉県吹奏楽連盟

協賛

株式会社タムロン

表紙作品提供

埼玉県立新座総合技術高等学校 デザイン専攻科 田波 美柚

作品名「音色」

作者コメント「演奏によって人から人へ伝わる心の温かさをデザインしました。

下から上に向かって気持ちが昂る様子をデザインに取り入れました。」

【アンケートのお願い】 今後のソニックシティ主催公演の参考のため、アンケートへの協力をお願いいたします。アンケートにお答えいただきました方の中から抽選で3名様へ本日の出演者・原田慶太楼氏、辻彩奈氏のサイン色紙をお送りいたします。右の二次元コードより、スマートフォン・タブレットからお答えください。(所要時間約5分)



▶全てのプログラムが終了した時写真真撮影が可能になりました。撮影はスマートフォン・携帯電話のみ、自席にご着席のまま行い、動画の撮影はご遠慮ください。是非、コンサートの感動を多くの方と分かち合っていただけばと存じます。(SNS等への投稿の際は、#ソニックシティの追加をお願いします)



©MASATOSHI YAMASHIRO

指揮：原田慶太楼

東京交響楽団正指揮者、愛知室内オーケストラ首席客演指揮者兼アーティストック・パートナー。アメリカではシンシナティ交響楽団およびシンシナティ・ポップス・オーケストラ、アリゾナ・オペラ、リッチモンド交響楽団のアソシエイト・コンダクターを経て、2020年シーズンからジョージア州サヴァンナ・フィルハーモニック音楽&芸術監督であり、25年7月からオハイオ州デイトン・フィルハーモニック管弦楽団音楽・芸術監督にも就任する、日米欧を中心に目覚ましい活躍を続ける期待の俊英。オペラでもアリゾナ、ノースカロライナ、シンシナティ、ブルガリア国立歌劇場等で席卷。10年タングルウッド音楽祭で小澤征爾フェロー賞、13年ブルーノ・ワルター指揮者プレビュー賞、米国ショルティ財団のキャリア支援賞6度に加え、23年には日本人初となるトップのコンダクター賞を受賞。09年キャソルトン・フェスティバルにロリン・マゼール、11年PMFにはファビオ・ルイジから招待を受けて参加。第29回渡邊暁雄音楽基金音楽賞、第20回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。
オフィシャル・ホームページ：kharada.com / @KHconductor



ヴァイオリン：辻 彩奈

1997年岐阜県生まれ。東京音楽大学卒業。2016年モントリオール国際音楽コンクール第1位、併せて5つの特別賞を受賞。11歳にて名古屋フィルハーモニー交響楽団と共演。これまでに、モントリオール交響楽団、スイス・ロマンド管弦楽団、トゥールーズ・キャピトル管弦楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京交響楽団、東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、広島交響楽団、九州交響楽団などと共演している。2017年「岐阜県芸術文化奨励」、2018年「第28回出光音楽賞」、2023年「第24回ホテルオークラ音楽賞」を受賞。ヴァイオリンを小林健次、矢口十詩子、中澤きみ子、小栗まち絵、原田幸一郎、レジス・バスキエの各氏に師事。2020年、自らが権代敦彦に委嘱した「Post Festum」を世界初演。コロナ禍にあって国内公演の代役で幅広く活躍したことは、レパートリーを広く拡充すると共に、経験を深く積むことにつながった。2024年2月、愛知室内オーケストラにて「権代敦彦：時と永遠を結ぶ絃〜ヴァイオリンとオーケストラのための」を世界初演している。使用楽器は、NPO法人イエローエンジェルより貸与の Joannes Baptista Guadagnini 1748である。

本公演について、原田慶太楼さんよりメッセージを頂戴しております。

.....

自分は日本で指揮をする時になるべく日本で演奏されない作曲家を紹介していきたいと考えています。

その思いから今回はアメリカの女性作曲家 JENNIFER HIGDON を紹介させていただきました。

彼女は 2010 Pulitzer Prize for Music 受賞、そして3回も Grammy Award for Best Contemporary Classical Composition 受賞しています。

Fanfare Ritmico は人生のリズム、スピード、テンポ感を祝う音楽。今のファストペース(fast pace)な時代、スマートフォンの時代、昔想像できなかった『今』を音楽で表現しています。

この『今』という作曲をすごく感じとられるのが SHOSTAKOVICH 交響曲5番。

自分がこの先作曲家として生きていけるのか、生きていけないのか、そのターニングポイントを明確に表してる音楽です。

.....

「命」時代との闘いの中で^{はとど}生きる生命力に浸る

ヒグドン ファンファーレ・リトミコ [日本初演]

ヒグドンは、現在のアメリカを代表する作曲家の1人。そんな彼女が、サンフランシスコを拠点にかつて存在していた「アメリカン・ウィメンズ・オーケストラ」が企画する「ファンファーレ・プロジェクト」の一環として作り、2000年に初演されたのが「ファンファーレ・リトミコ」である。

タイトルの一部である「リトミコ」という言葉に見られるように、多彩な打楽器とともにオーケストラが繰り広げるめくるめくリズムが特徴となっている。と同時に「ファンファーレ」の名称の通り、金管楽器をはじめとする華やかな響きにも事欠かない。ヒグドン自身、この曲について次のように述べている。「新たなミレニアムを迎える前夜にこの作品を書きながら、時が進むにつれてすべての物事がいかにスピード化の一途をたどって来たかを私は思い起こしている。(…) このファンファーレは、人間と機械のリズミカルな動きと、新世紀における私たちの存在のあらゆる瞬間に生じるエネルギーを讀めるものに他ならない。」

■プロフィール ■ ジェニファー・ヒグドン (1962-) は、現代クラシック音楽界で最も高く評価されているアメリカ人作曲家のひとり。ヴァイオリン協奏曲で2010年ピュリッツァー音楽賞、打楽器協奏曲で2010年グラミー賞、ヴィオラ協奏曲で2018年グラミー賞、ハーブ協奏曲で2020年グラミー賞を受賞。2018年、ヒグドンは、作曲分野に多大な影響を与え卓越した業績を持つ現代クラシック作曲家に贈られる、権威あるネマーズ賞を受賞している。最近では、アメリカ芸術文学アカデミーの殿堂入りを果たした。ヒグドンの作品は年間数百回演奏され、70枚以上のCDに録音されている。中でも「ブルー・カデツラル」は現在最も演奏されている現代管弦楽作品であり、世界中で800回以上演奏されている。最初のオペラ「コールド・マウンテン」は、インターナショナル・オペラ・アワードの最優秀ワールド・プレミア賞を受賞し、録音はグラミー賞2部門にノミネートされた。彼女の作品はLawdon Pressから独占的に出版されている。

モーツァルト ヴァイオリン協奏曲第4番《軍隊》ニ長調 K.218

モーツァルト (1756-91) は10歳台後半を迎えていた1773年から75年にかけて、5つのヴァイオリン協奏曲を集めて作っている。当時の彼は、故ザルツブルクの宮廷楽団で首席ヴァイオリン奏者として仕えていた。またそうしたことから、おそらくは宮廷でおこなわれる演奏会のために、ヴァイオリン協奏曲を書く必要があったのだろう。

『ヴァイオリン協奏曲第4番』は、1775年の作品。時折「軍隊」という愛称で呼ばれることもあるが、これは第1楽章の冒頭にオーケストラの演奏するリズムが軍隊の行進に似ており、やがてそれがファンファーレを彷彿させる輝かしい盛り上がりに至るためである。全体は3つの楽章から成り、第2楽章は独奏ヴァイオリンを中心に繊細とした優雅な旋律が歌い上げられるゆったりとした楽章、第3楽章は全曲中ではじめて独奏ヴァイオリンの演奏にオーケストラが応えるという始まり方で、序奏と軽快な主部から構成されている。コンサートマスターがオーケストラを引っ張りながら独奏ヴァイオリンを奏する…、そんな当時の演奏スタイルを彷彿させる内容だ。

ショスタコーヴィチ 交響曲第5番 二短調 op.47

20世紀最大の作曲家の一人といわれるショスタコーヴィチ (1906-75) は、人生の大半をソヴィエト時代のロシアで過ごし、その中で作曲活動をおこなった。そんなソヴィエトにおいて「交響曲」というジャンルは、壮大なオーケストラの響きを用いて人民の士気を鼓舞するという一方で、政府の文化政策上の公的手段だった。というわけでショスタコーヴィチも生涯15曲の交響曲を作るが、彼はその中に、政府の思惑とは異なる自らの思いのたけを表現し、戦争や政治体制の不条理を批判しつつ、ソヴィエト体制下での生き残りを図った。

『交響曲第5番』は、ソヴィエトの支配者であったスターリンの支配が猛威を振るっていた1937年の作品。第1楽章から3楽章までの陰鬱な雰囲気第4楽章で一気に開放されることから、「ベートーヴェンの<運命>や<第九>と共通する主題を持っている」とされ、「革命」という呼称まで与えられていた。だが、上記のような屈折した状況下で、ショスタコーヴィチ自身が「第4楽章の“歓喜”は強制されたものだ」と語ったとする『証言』が出版されるなど、現在その解釈は実に様々に考え直されている。

勇壮な音楽の中に差し迫った悲劇の影が色濃い第1楽章、民衆の踊りが一瞬のうちにグロテスクな死の舞踏に変化する第2楽章、苦悩と鎮魂の想いが交差する第3楽章、行進曲やファンファーレ風の華やかな響きの中に、聴き手に大きな謎を突きつける第4楽章。ショスタコーヴィチ自身は、このクライマックスにどのような想いを込めたのだろうか。

曲目解説：小宮正安

〈アート〉と音楽 その③

埼玉県立新座総合技術高校の生徒がデザインする表紙が、演奏会のプログラム表紙を飾る「日本フィルさいたま定期演奏会」。プログラムの他にロビーを彩る〈アート〉が本公演初公開！

2024 シリーズのコラムでは、造形芸術と音楽との関係についてご紹介いたします。

「ファンファーレ」と「アート」



18世紀後半のシャンボール城。フランソワ・アントワーヌ・アヴェリーヌ原画

元々は「誇示する」という意味合いだった。本時の演奏会のプログラムを貫くキーワードである「ファンファーレ」のこと。ファンファーレというと、式典等の開始に当たって、トランペットをはじめとする金管楽器が華々しく演奏する曲、というイメージがある。ということは、西洋音楽の世界ではそれこそ古代ローマの昔から存在していたジャンルのように思いたくなるが、こうした概念を表すのに「ファンファーレ」という言葉が初めて用いられたのは16世紀半ばのフランスだった。

ちょうどこのころのフランスは、フランス・ルネッサンスの立役者ともいえるフランソワ1世(1494-1547)の治世の終わりころ。ヨーロッパが大きく変化してゆく動乱の世を生きながら、フランスを一位二位を争うヨーロッパの強国にしていった君主である。特に彼は、ヨーロッパにおける地政学上の鍵ともいえるイタリアに何度も軍隊を進めたが、この地の豊かな芸術に感銘を受け、ダ・ヴィンチ(1452-1519)をフランスに招いたほど。しかもこの時ダ・ヴィンチは、制作中の『モナ・リザ』を携えてフランスを訪れ、この地でこの作品を完成させた。

それもこれも、フランソワ1世が単なるアート好きだったからではない。彼にとってフランスを名実ともに輝ける国にするにあたっては、文化力が必要だった。というのもヨーロッパには古来、文化力があってこそ一流の君主、一流の国家という考え方があったからである。まただからこそ彼は、いわゆる造形芸術のみならず音楽芸術の振興にも力を注ぎ、またそうした文化政策の中で「ファンファーレ」という言葉も登場したのだろう。

そんなフランソワ1世が、いかに文化政策に力を入れていたという証は、現在でもフランスの様々なところに残されている。とりわけ、ロワール渓谷に姿をとどめるシャンボール城は典型的な存在だ。敬愛するダ・ヴィンチの死後に建て始められ、王が亡くなるまで建設が続けられた古城であり、イタリア・ルネッサンスの影響を強く受けた鋭利で精巧な屋根を特徴とする、造形芸術の極致に他ならない。

文章：小宮正安

第 145 回さいたま定期演奏会に寄せて

この度は第 145 回さいたま定期演奏会の開催を心よりお慶び申し上げます。

今回、ステージ左側には樹齢約 120 年の五葉松（ゴヨウマツ）を展示させて頂きました。五葉松は古くから縁起の良い木として親しまれてきた日本固有種の樹木でございます。本作は株立ちという、一つの株から複数の幹が伸びる樹形に仕立てたもので、三本の幹が織りなす盆上の風景には、優美な空間と時間の流れを感じることができます。

右側には、樹齢約 50 年の紅葉（モミジ）を展示させて頂きました。本作は紅葉を主木とした、「彩花盆栽」と呼ばれる作品になります。彩花盆栽とは「一盆一樹」の伝統盆栽に対して、草花や砂を用いて野道や川辺の景色等を写実的に表現する、盆栽清香園が生み出した寄せ植え盆栽の表現技法でございます。主木のモミジが青々とし涼し気な印象を与えるなか、足元ではサンザシ、コガネシダ、アセビ、セキショウといった草木が共存しており、閑静とした森の風景を想起させてくれます。

オーケストラの演奏と、盆栽の景色の調和をお楽しみいただけましたら幸甚に存じます。

盆栽清香園 山田寅幸





清香園 history

江戸末期、庶民の文化としての園芸が花開いた時代、初代庄之助が現在の台東区根岸のあたりに創業いたしました。

清香園の屋号の由来は、梅の盆栽を多く手がけていたことから「清く香る園」といたしました。二代目初五郎は、薄鉢で竹の盆栽を作ることを得意とし、三代目釜次郎は石付き盆栽を得意としました。この釜次郎の代で太平洋戦争の戦災を逃れて大宮の盆栽村に移住。現在は、四代目の俊美男が園主で、盆栽種全般を扱っております。さいたま市北区の盆栽町（通称盆栽村）には毎日、海外からのお客様が訪れています。

お客様に一番身近な「窓口」としての 専門店を目指して

盆栽園という枠組みに捉われず、
お客様に寄り添う専門店を実現していきます。





日本フィルハーモニー交響楽団
第146回さいたま定期演奏会

2024 **11.9** SAT

指揮：小林研一郎 [桂冠名誉指揮者] ピアノ：小山実稚恵
 曲目：ラフマニノフ/ピアノ協奏曲第2番
 リムスキー=コルサコフ/交響組曲「シェヘラザード」
 開場13時 開演14時



公演詳細


©MICHIKO YAMAMOTO ©HIDEAKI OTSUKA



日本フィルハーモニー交響楽団
第九演奏会 2024

2024 **12.13** FRI

指揮：下野竜也
 ソプラノ：富平安希子 アルト：小泉詠子 テノール：糸賀修平
 バリトン：宮本益光 合唱：埼玉第九合唱団
 曲目：ニコライ/歌劇「ウインザーの陽気な女房たち」序曲
 ベートーヴェン/交響曲第9番「合唱」
 開場18時 開演19時






公演詳細


©NAOYA YAMAGUCHI ©YOSHINOBU FUKAYA Bura



日本フィルハーモニー交響楽団
第147回さいたま定期演奏会

2025 **1.11** SAT

指揮：沼尻竜典 ヴァイオリン：三浦文彰
 曲目：ブラームス/ヴァイオリン協奏曲
 ドヴォルジャーク/交響曲第9番「新世界より」
 開場13時 開演14時



公演詳細


©RYOICHI ARATANI ©Yuji Hori



日本フィルハーモニー交響楽団
第148回さいたま定期演奏会

2025 **3.15** SAT

指揮：梅田俊明 バレエ：牧阿佐美バレエ団
 曲目：プロコフィエフ/バレエ「ロミオとジュリエット」
 ソニックシティ特別版
 開場13時20分 開演14時



公演詳細


©KENJI UEDA

会場：ソニックシティ 大ホール

■チケット価格 (単独券) 「第九」/「バレエ」公演の価格は通常公演とは異なります。
 S: 6,000円 A: 4,500円 B: 3,500円 Ys (19歳以下): 2,000円 (11/9/2025 L11)
 S: 7,000円 A: 5,500円 B: 4,000円 Ys (19歳以下): 2,000円 (12/13/2025 3.15)
 ホールメンバーズ、チョイス券など、各種割引あり。

RENAISSANCE CLASSICS

西本智実「ノスタルジー」
with 三浦祐太郎
—山口百恵名曲集—

2024年12月7日(土) 開場14時 開演15時 特製プログラム付 プラチナ: 9,000円 ペアチケット 17,000円 (全席指定)
 会場：ソニックシティ 大ホール S: 7,500円 ペアチケット 14,000円 (全席指定)
 【お問い合わせ・お申込み】048-647-7722 (平日9時～17時)




SONIC CITY SERIES 2025

Japan Philharmonic Orchestra Concert 日本フィルハーモニー交響楽団さいたま定期演奏会

<p>vol.149</p> <p>2025.5.24.sat 14:00 start</p> <p>1曲目 カーチン・ヴァイオリン マリア・ツェル 藤原直香</p>	<p>vol.150</p> <p>2025.7.4.fri 19:00 start</p> <p>2曲目 京田肇太郎 長田知樹</p>	<p>vol.151</p> <p>2025.9.27.sat 14:00 start</p> <p>1曲目 小林研一郎 神尾利雄子</p>	<p>vol.152</p> <p>2025.11.15.sat 14:00 start</p> <p>2曲目 西本智実 茶川直希</p>	<p>7楽団/高奏会2025</p> <p>2025.12.12.fri 11:00 start</p> <p>1曲目 防川大地 指揮者 8曲目 新田由紀子・小宮山真由美・大塚愛子 9曲目 山崎洋子・山崎洋子 10曲目 石井真純・高橋愛珠 11曲目 高奏会五合唱団</p>	<p>vol.153</p> <p>2024.1.31.sat 14:00 start</p> <p>1曲目 飯沼真輝 2曲目 数村友一・アインシュタイン</p>	<p>vol.154</p> <p>2024.3.28.sat 14:00 start</p> <p>1曲目 尾高忠明 2曲目 生田智大</p>
---	--	--	---	--	---	--

SONIC CITY

発行者: アソシエーション・ソニックシティ 主催: ソニックシティ 協賛: 第1回公演 第114回公演 3席 4,000円 / 4席 4,500円 / 5席 5,000円 / 6席 5,500円 / 7席 6,000円 / 8席 6,500円 / 9席 7,000円 / 10席 7,500円 / 11席 8,000円 / 12席 8,500円 / 13席 9,000円 / 14席 9,500円 / 15席 10,000円



7月スタート

社会人のためのダンスワークショップ



仕事帰りに体を動かしませんか？

【料金】7,000円
【場所】ソニックシティ リハーサル室
【時間】19:00～20:00
【期間】2024年7月～2025年1月
全14回（月2回）

SONIC CITY



Sonic City Dance シリーズ



社会人のための
ダンスワークショップ
7月4日（木）～

ダンスフリースタイル 2024
8月24日（土）

ソニックダンスステージ 2025
2025年
2月1日（土）



SONIC CITY × JALF®

Dance Free Style 2024

2024.8.24(sat)
start 14:00
ソニックシティ小ホール

ダンスフリースタイルとは？
「ダンスの神髄であるダンスパフォーマンス」を「ダンス」の
要素から学ぶためのダンスワークショップを開催します。
舞子で楽しむダンスが、ダンスの楽しさを伝えるための
ダンスワークショップです。
ダンスの楽しさを伝えるためのダンスワークショップ
ダンスの楽しさを伝えるためのダンスワークショップ



Sonic Dance Stage 2025
2025.2.1(sat)



High School × Live Music

日本フィルハーモニー交響楽団

2025年1月演奏会



©ZUZANNA SPECIAL

©YOSHIO MATSUI



©Akira Sa

©Shin Yamaguchi

指揮：山田和樹

ヴァイオリン：周防亮介

エルガー：行進曲《威風堂々》第1番

ヴォーン・ウィリアムズ：揚げひばり

エルガー：交響曲第2番

1/17、18、1/25 公演 好評発売中

【1/17、18、25 公演】S ¥8,500 A ¥7,000 B ¥6,000 C ¥5,000 PV4,500 Ys(25歳以下) ¥2,000

【1/26 公演】S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 PV4,500 Gs(19歳以上) ¥5,000 Ys(25歳以下) ¥2,000

Gs・Ys は 3歳以下から選べます

指揮：藤岡幸夫

フルート：Cocomi

武清徹：組曲《波の盆》

モーツァルト：フルート協奏曲愛2番

ルグラン：交響組曲《シェルブールの雨傘》

1/26 公演 2024年10月23日(水)発売

2025. **117** (金) 19:00
サントリーホール

18 (土) 14:00
サントリーホール

2025. **125** (土) 17:00
横浜みなとみらいホール

2025. **126** (日) 14:00
東京オペラシティコンサートホール

※来就学児の入場はご遠慮ください。託児サービスがございます。※出演者、曲目等は変更される場合がございます。予めご了承ください。

お申込み
お問合せ

日本フィル・サービスセンター

TEL: **03-5378-5911** / チケット: <https://eticket.japanphil.or.jp>

(平日 10時~17時)



世界が認めた光学技術

タムロンは、あらゆる分野の光学製品を開発・製造する総合光学機器メーカーです。その中でも、ミラーレスカメラ／デジタル一眼レフカメラ用交換レンズは、独創的な仕様、優れた描写力、画期的なコンパクト設計、操作性の良いデザインにより、世界中で高く評価されています。

私たちはこれからも、独自の先端光学技術により、さまざまな事業分野における製品を通じて、社会の感動と安心を創造してまいります。



主な取扱い製品

ミラーレスカメラ用交換レンズ、一眼レフカメラ用交換レンズ、監視カメラ用レンズ、FA/マシンビジョン用レンズ、TV会議用レンズ、カメラモジュール、車載用レンズ、コンパクトデジタルカメラ用レンズ、ビデオカメラ用レンズ、ドローン用レンズ、医療用レンズ 他



株式会社タムロン

〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地

<https://www.tamron.com/jp/>

TAMRON
Focus on the Future